

# 神奈川県総合リハビリテーションセンター あり方検討会(第2回)資料



令和7年1月20日(月) 神奈川県総合リハビリテーションセンター あり方検討会(第2回) 神奈川県健康医療局保健医療部県立病院課

### 目次

#### 本日のスケジュール

#### 報告事項

- 1 前回の検討会の振り返り
- 2 センターの現状・課題

#### 議題

今後の検討会における論点について

Kanagawa Prefectural Government

1

# 報告事項

### 1 前回の検討会における振り返り

#### 【前回の検討会における主なご意見】

- 〇 今までの<u>医療と福祉の連携</u>について、<u>評価・分析</u>が必要
- 〇 「リハセンターを<u>必要とする疾患</u>とは何か」を見極めることが必要
- O リハセンターの<u>収支、費用対効果も確認</u>しながら検討したい

# 2 センターの現状・課題

- ※ 「現状」のデータは平成8年度(指定管理前)、平成18年度(第1期指定管理開始時)、平成28年度(第2期指定管理開始時)のいずれかと令和5年度を比較しているが、対象データがない場合は上記以外の年度と比較
- ※ リハセンターのデータは表の色を「青」、全国・県内・他施設のデータは表の色を「橙」で表している。

# (参考) 施設詳細

	施設名	対象者	機能	病床・定員
病院	神奈川リハビリ テーション病院	脊髄障害、脳外傷、骨・関節疾 患、神経疾患、小児神経疾患、 脳卒中等	患者の早期社会復帰に向け、医師・看護師及びセラピストな どの多職種チームによるリハビリテーション医療を提供	一般 284床 重度心身障害児・者 40床(七沢療育園)
	七沢学園 (福祉型障害児入所施設)	知的障害や発達障害のある児童	疾病や不適応行為についての治療や行動改善のための教育と 評価等、家庭復帰に向けた支援	30人 短期入所 2 人
社		18歳以上の知的障害者	社会復帰に向けた、施設入所支援、生活介護及び生活訓練	30人
会	七沢学園 (障害者支援施設)	医療重度者、強度行動障害者、 職業的技能や社会生活の向上を 必要とする方	障害特性に合わせた個別支援	生活介護19人 生活訓練17人 短期入所3人
祖祉	七沢療育園 (療養介護) (医療型障害児入所施設)	重度重複障害児・者の方	利用者個々の個性、ライフステージや障害特性に合わせた生活支援、医療的ケア及び日中活動などを提供し、安全・安心な生活を送れるよう、医療と福祉の総合的な支援	40人 短期入所(空床型)
施設	七沢自立支援ホーム(障害者支援施設)	<肢体不自由部門> 脊髄障害や脳血管障害、高次脳 機能障害のある脳損傷等の肢体 不自由者	医学的、職業的、社会的リハビリテーションサービスを総合 的に提供し、地域生活移行に向けた個別支援	40人 機能訓練42人 短期入所 2 人
		<視覚障害部門> 視覚に障害のある方	医療的管理の下、生活面の支援や視覚リハビリテーション サービスを総合的に提供し、地域生活移行に向けた個別支援	10人 機能訓練18人

# (1) 神奈川リハビリテーション病院

### ① 検討の視点

- **患者動向の変化**に対応できているか。
- **民間での対応が困難**な高次脳機能障害などの患者の受入先となっているか。
- 〇 県内のリハビリテーション医療の拠点施設として、高度専門的なリハビリテーションを提供できているか。
- **地域との連携**は十分に行われているか。
- 一十分な体制となっているか。



#### 視点:患者動向の変化に対応できているか

#### ○病床稼働率等〈リハ〉

	H18	R5	増減
病床稼働率	91.4%	82.7%	-8.7pt
延べ入院患者数	93,433人	84,756人	-8,677人
延べ外来患者数	86,716人	49,439人	-37,277人

#### ○病床利用率〈他病院・全国〉

区分	病院	病床利用率
旧由	厚木市立病院	70.0%
県内	小田原市立病院	88.0%
県外	兵庫県立リハビリ テーションセンター	78.1%
<b>人</b> 园	一般病院	65.7%
全国※	回復期リハ1	68.8%

※病床数200床~299床の自治体が運営する病院の平均値を採用

出典:令和5年度 厚木市立病院 病院年報

令和5年度 小田原市立病院 病院年報

令和4年度 兵庫県立リハビリテーション中央病院HP 病院指標

令和4年度 病院経営管理指標(厚生労働省)

・病床稼働率は高い水準を維持しているが、R5は事業計画の数値目標(90.0%)を下回っている。



視点:患者動向の変化に対応できているか

視点:民間での対応が困難な高次脳機能障害患者などの受入先となっているか

#### ○主な疾患別受入数〈リハ〉

疾患名	H28	R5	増減
高次脳機能障害	247人	266人	+19人
小児神経疾患	118人	110人	-8人
脊髄損傷	100人	82人	-18人
神経難病	26人	32人	+6人
合計	491人	490人	-1人

#### 〇主な疾患別患者数〈全国〉

疾患分類	H29	R2	増減
脳血管疾患	231.9千人	197.5千人	-34.4千人
神経系疾患	291.2千人	291.5千人	+0.3千人

出典:厚生労働省患者調査 推計患者数(入院・外来の総数)

#### 〇小児慢性特定疾病医療受給者証所持者数

(神経・筋疾患)<県内>

	H29	R5	増減
県内小児慢性特定疾病 医療受給者証所持者数 (神経・筋疾患)	440人	690人	+250人

○特定医療費(指定難病)受給者証所持者数(神経・筋疾患)(連経・筋疾患)

	H29	R5	増減
特定医療費(指定難病) 受給者証所持者数 (神経・筋疾患)	15,800人	19,867人	+4,067人

Kanagawa Prefectural Government



視点:患者動向の変化に対応できているか

視点:民間での対応が困難な高次脳機能障害患者などの受入先となっているか

#### ○疾患別入院患者数〈リハ〉

	H18	R5	増減
骨関節系患者	370人	571人	+201人
脳血管系患者	1,107人	545人	-562人

#### 〇疾患別患者数〈県内〉

	H20	R2	増減
関節症	54千人	146千人	+92千人
脳梗塞	52千人	55千人	+3千人

出典:厚生労働省患者調査 推計患者数(入院・外来の総数)

- ・脳血管疾患の全国患者は減少傾向にあるが、神奈川リハ病院の高次脳機能障害の受入患者数は増加傾向。
- ・神経系疾患の全国患者は横ばい、県内患者は増加傾向にあり、神奈川リハ病院の小児神経疾患及び神経難病の 受入患者数は概ね横ばい。
- ・脊髄損傷の受入患者数は減少傾向。
- ・関節症の県内患者は増加傾向にあり、神奈川リハ病院の骨関節系の入院患者数も増加。
- ・脳血管疾患の全国患者は減少、脳梗塞の県内患者は横ばい、神奈川リ八病院の脳血管系の入院患者数は減少。



**視点:高度専門的なリハビリテーションを提供できているか 視点:民間での対応が困難な患者の受入先となっているか** 

#### ○主な臨床指標〈リハ〉

	R3	R5	増減	備考	※重症患者
重症患者※)受入率	46.5%	58%	+11.5pt	回復期リハ病棟 入院料1(※)の基 準値 40%	日常生活機能評価が10点以上またはFIM55点以下の 患者
重症患者における退 院時の日常生活機能 改善率(※)	72.9%	89.1%	+16.2pt	回復期リハ病棟 入院料1(※)の基 準値 30%	※日常生活機能改善率 退院時の日常生活機能評価 が4点(FIM総得点は16点)改善した重症患者の割合 ※回復期リハ病棟入院料1の施設基準
栄養サポートチーム(※) 介入件数	127件	169件	42件		入院料1~6までの基準があり、数字が少ないほど、 運営体制や実績が優れており、診療報酬点数が高い
摂食嚥下チーム 介入件数	0件	15件	15件		※栄養サポートチーム   リハセンターにおいては、医師、看護師、管理栄養士、   薬剤師、臨床検査技師でチームを構成
褥瘡回診件数	15件	16件	1件		NOTITED A PRINCIPLE TO THE TOTAL OF THE PRINCIPLE AND THE PRINCIPL

- ・回復期リハ1の施設基準を超える重症患者受入率、生活機能改善率を達成。
- ・チーム医療に係る各指標の件数は増加。

Kanagawa Prefectural Government



視点:高度専門的なリハビリテーションを提供できているか

視点:地域との連携が十分行われているか

#### ○1患者当りの訓練実施単位(※)数(PT,OT,ST) 〈リハ〉

	H30	R5	増減
回復期病棟	4.36	4.49	+0.13pt
一般病棟	3.17	2.84	-0.33pt

<sup>※1</sup>日にリハビリを実施した時間(20分1単位)対象疾患や施設基準で1単位あたりの 算定できる診療報酬が異なる

・1患者当り訓練実施単位は減少。診療報酬の上限6単位も未達。

#### ○紹介・逆紹介率〈リハ〉

	R3	R5	増減
紹介率	71.7%	74.4%	+2.7pt
逆紹介率	62.2%	74.3%	+12.1pt

・R7.1より紹介受診重点医療機関(※)として公表

※かかりつけ医などからの紹介状を持って受診いただくことに重点をおいた医療機関

#### ○家庭復帰率〈リハ〉

	R3	R5	増減
家庭復帰率	87.5%	87.7%	+0.2pt

・R5事業計画の数値目標(81.0%)を上回っている。

#### ○地域別入院患者数〈リハ〉

	R5
県央	39%
湘南(東部•西部)	22%
横浜	10%
相模原	6%
県西	5%
川崎(北部・南部)	4%
横須賀•三浦	3%
県外	12%

・入院患者の約9割が県内、そのうち約5割が神奈川リハ病院 の立地する県央地域が占めている。



#### 視点:高度専門的なリハビリテーションを提供できているか

#### OKRRC (※) 相談受付件数〈リハ〉

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
相談件数	64人	35人	62人	19人	20人	17人	27人

#### OKRRC実証実験実績〈リハ〉

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
利用人数	285人	376人	380人	330人	327人	347人	358人
延べ単位	1,640単位	2,514単位	2,007単位	2,751単位	2,151単位	2,366単位	2,123単位

※KRRC:かながわリハビリロボットクリニックの略称。県民からの相談対応やリハビリロボットの実証実験を行う専門の相談窓口として、平成29年度に神奈川リハビリテーション内に設置

#### ○筋電義手(※)訓練実績⟨リハ⟩

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
新規訓練者数	2人	2人	3人	4人	3人	4人	4人

※筋電義手:腕の筋肉から発生するわずかな電流に反応し、自分の意思で手の部分を動かすことができる義手

- ・政策的役割としてリハビリテーションロボットの開発支援・実証実験を実施
- ・普及が進んでいない筋電義手普及促進に取り組んでいる。(東日本一の拠点を目指している)

# (参考) KRRC実証実験実績

						平	成29年	度	平	成30年	度	令	和元年	变	令	和2年月	<b></b>	令	和3年	度	令	和4年	度	<del></del>	和5年	度		累計	
						A	$C=A\times B$	Е	A	$C=A\times B$	Е	A	$C=A\times B$	Е	A	$C=A\times B$	Е	A	$C=A\times B$	Е	A	$C=A\times B$	Е	A	$C=A\times B$	Е	A	$C=A\times B$	Е
	項目	依頼元名	実験等概要	位置付け	実施部門	実人員	延べ 単位数 (単位)	対応ス タッベ人 員(人)	利用者 実人員 (人)	延べ 単位数 (単位)	対応ス タッベ人 員(人)	利用者 実人員 (人)		対応ス タッフ 延べ人 員(人)	利用者 実人員 (人)	延べ 単位数 (単位)	対応ス タッフ 延べ人 員(人)	利用者 実人員 (人)	延べ 単位数 (単位)	対応スタッベ人員(人)	利用者 実人員 (人)	延べ 単位数 (単位)	対応ス タッベ人 員(人)	利用者 実人員 (人)	延べ 単位数 (単位)	対応スタッベ人員(人)	利用者 実人員 (人)	延べ 単位数 (単位)	対応スタッベ人 (人)
1	HAL	県高齢福祉課 サイバーダイン	介護・医療分野の従事者の負担軽減や、患者・利用者のQOLの向上等に向け、HALを活用することにより、ロボット導入事例の蓄積を行い、介護・医療現場での円滑な導入に資する。脊髄損傷など、治療・訓練効果の評価検証を行なう。	介護ロボット普及推進センター事業	押 リ ハ 病院		206	138	55	408	184	23	202	81	15	131	50	4	38	18	35	278	116	22	184	114	185	1,447	701
2	Exo Atlet	Exo Atlet	脊髄損傷による両下肢の麻痺者に装着し、実際に歩行訓練を行うことで、構造面での課題や使用者の選定基準など運用面での課題を明らかにするとともに、訓練効果の評価、検証を行なう。ロシア本国では片麻痺者も対象であり検証を進める。(ウクライナとの戦争により一時故障機の修理対応ができずにいたが、別の機種を用意でき対応をしている。2023年1月情報)		神リハ病院 理学療法科 研究部		1	-	-		-	-	-		4	16	9	2	78	21	2	10	7	5	53	27	13	157	64
3	パワーアシスト ハンド	エルエーピー	脳血管障害後の手部に麻痺がある方に対して、 訓練効果の評価、検証を行い開発企業にフィー ドバックするほか、訓練での活用、患者の自主 訓練、自宅での訓練継続などに活用を図る。	ボット産業	作業療法科		444	207	64	667	309	97	425	203	68	713	344	56	534	262	58	641	291	36	398	189	438	3,822	1,805
4	ドライビング シュミレーター	(病院事業として実施)	脊髄損傷、高次脳機能障害患者等を対象に、自動車運転免許の(再)取得に関して、身体機能・認知機能面の評価を行い、残存能力の向上を図る。 (ドライビングシュミレータは、もともと当院作業療法科のロボット技術を活用した研究対象として開発にあたってきた)		神リハ病院作業療法科		990	388	257	1,439	658	260	1,380	587	243	1,711	734	265	1,501	609	252	1,437	558	295	1,488	592	1,767	9,946	4,126

Kanagawa Prefectural Government



#### 視点: 十分な体制となっているか

○診療科別医師数	(常勤)	〈リハ〉	※R6.11時点
----------	------	------	----------

職種(常勤)	H18	R6*	増減
整形外科	8人	8人	0人
リハビリテーション科	7人	8人	+1人
脳神経外科	1人	1人	0人
小児科	3人	3人	0人
内科	4人	2人	-2人
その他	15人	7人	-8人
合計	38人	29人	-9人

○セラピストの人数(常勤)〈リハ〉

職種(常勤)	H18	H28	R5	R5-H18
理学療法士	26人	30人	56人	+30人
作業療法士	16人	22人	35人	+19人
言語聴覚士	6人	5人	10人	+4人

〇診療科別医師数(非常勤) 〈リハ〉 ※R6.11時点

H18	R6*	増減
0人	5人	+5人
0人	3人	+3人
0人	3人	+3人
0人	2人	+2人
5人	5人	0人
14人	26人	+12人
19人	44人	+25人
	0人 0人 0人 5人 14人	0人5人0人3人0人3人0人2人5人5人14人26人

○セラピストの人数〈全国〉

職種	H18	H28	R5
理学療法士	31,385.7人	74,235.6人	88,925.5人
作業療法士	19,202.5人	43,884.1人	50,304.4人
言語聴覚士	5,987.2人	15,123.2人	17,703.1人

・内科、その他常勤医師が減少し、内科を除く非常勤医師が増加

・セラピストの人数は増加

出典:厚生労働省医療施設調查・病院報告 病院常勤換算従事者数

# 3 分析

#### 【視点】患者動向の変化に対応できているか。

⇒ 骨関節系の患者が増加し、脳血管系患者が減少しているのは県内の傾向と概ね合っているのではないか。

#### 【視点】民間での対応が困難な高次脳機能障害などの患者の受入先となっているか。

⇒ 民間での対応が難しい高次脳機能障害や回復期リハの重症患者など、県内のリハビリテーション医療の拠点としての機能を発揮するとともに、公立病院としての役割を一定程度果たしているのではないか。

# 3 分析

### 【視点】県内のリハビリテ – ション医療の拠点施設として、高度専門的なリハビリテーションを 提供できているか。

⇒ 家庭復帰率が数値目標を上回るとともに、KRRCにおける先駆的な事業に取り組んでいることから、高度専門的なリハビリが提供できているといえるのではないか。

#### 【視点】地域との連携は十分に行われているか。

⇒ 紹介率や逆紹介率が増加し、「紹介受診重点医療機関」として公表されており、 また、入院患者の約9割が県内、そのうち約5割が神奈川リハ病院の立地する県央地域が 占めていることから地域連携が進みつつあるといえるのではないか。

# ③ 分析

#### 【視点】十分な体制となっているか。

⇒ **常勤内科医が減少**していることから、高齢化の進展による**併存疾患を有する 患者の増加**に十分には対応できていないのではないか。

## 4 まとめ

#### 【課題】

- 〇 引き続き、拠点としての役割を担うには、どのような機能を有し、どのよう な患者・疾患を対象にしていくべきか。
- 〇 高度専門的なリハビリテーションを十分に提供していくにはどのような体制が必要か。
- O 地域連携をより一層進めていくにはどのようにしたらよいか。
- O 今後の患者動向や機能に見合った病院の<mark>規模</mark>はどのくらいが適当か。
- 〇 人材確保をどのようにしていくか。

# (2) 七沢学園(児童)

## ① 検討の視点

- **利用者動向の変化**に対応できているか。
- **民間施設での対応が困難な障害児**の受入先となっているか。
- 効果的な支援を提供しているか。
- 一十分な体制となっているか。



視点:利用者動向の変化に対応できているか

視点:民間施設での対応が困難な障害児の受入先となっているか

#### 〇知能指数別入所割合 <七沢学園(児童)>

	Н8	R5	増減
軽度以下	24%	72%	+48pt
中度	12%	8%	-4pt
重度	32%	16%	-16pt
測定不能	32%	4%	-28pt

#### 〇知的障害児数 <県内>

	H17	R4	増減
軽度	4,494人	18,277人	+13,783人
中度	3,153人	4,338人	+1,185人
重度	4,253人	6,343人	+2,090人
合計	11,900人	28,958人	+17,058人

出典:神奈川県福祉統計

・県内の軽度知的障害児数が大幅に増加している中、七沢学園の「軽度以下」の入所割合も大幅に増加。



視点:利用者動向の変化に対応できているか

視点:民間施設での対応が困難な障害児の受入先となっているか

#### 〇措置入所割合(延べ人数) <七沢学園(児童)>

	H28	R5	増減
措置入所(※)	9,141人	8,948人	-193人
契約入所(※)	783人	488人	-295人
措置入所割合	92.11%	94.83%	+2.72pt

※措置入所:児童相談所が家庭での養育が困難だったり不適当と認めた児童が

入所するもの

※契約入所:本人家族の申し出で、契約により入所するもの

・児童相談所からの措置入所の割合は、9割を超える 高い水準で推移。

#### 〇平均在所期間 〈七沢学園(児童)〉

H28	R5	増減
2.9年	3.4年	+0.5年
・平均在所期		

○重複障害別入所割合 <七沢学園(児童)>

		R5
入原	<b>斤者数</b>	25人
うち	自閉症	7人
重 複	ADHD	5人
障 害	その他	2人

・入所者の約半数が重複障害を抱えている。



視点:利用者動向の変化に対応できているか。

〇地域福祉支援事業(※)延べ人数 〈七沢学園(児童・成人合計)〉

		H28	R5	増減
総勢	数	3,216人	1,392人	-1,824人
	電話・来園による相談支援	1,754人	288人	-1,466人
	一時保護	105人	359人	+254人
	家族1日利用	0人	40人	+40人
	知的障害者通所機関等巡回指導	298人	223人	-75人
	通所事業	1,059人	482人	-577人

※在宅障害児者の地域生活に必要な支援を行うもの

・地域福祉支援事業は減少。

○短期入所延べ人数〈七沢学園(児童)〉

H28	R5	増減
623人	269人	-354人

・短期入所は大幅に減少しており、指定管理目標値(720人)を下回っている。

〇平均入所率〈七沢学園(児童)〉

H28	R5	増減
90.6%	85.9%	-4.7pt

・平均入所率は減少しており、R5事業計画の 数値目標(98.0%)を下回っている。



#### 視点:効果的な支援を提供しているか

〇 家庭復帰率 <七沢学園(児童)>

H28	R5	増減
80.0%	71.4%	-8.6%

※退所先がグループホームの方も含む

- ・家庭復帰率は減少しており、R5事業計画の数値目標(81.0%)を下回っている。
- 〇 心理科の対応件数 < 七沢学園(児童)>

		H28	R5	増減
総	数	102件	1,641件	+1,539件
	心理治療	9件	1,195件	+1,186件
	家族面接他	0件	434件	+434件
	心理テスト	51件	0件	-51件
	行動観察	4件	12件	+8件
	心理面接	38件	0件	-38件

○ 栄養状態(ローレル指数(R6)) <七沢学園(児童)>

	人数	割合
やせすぎ	3人	12%
やせ気味	7人	27%
標準	12人	46%
太り気味	0人	0%
太りすぎ	4人	15%

※ローレル指数:小学生の児童や中学生の 生徒に用いられる体格指数。[体重(kg)]÷[身長(m)の3乗]

[体重(kg)]÷ [身長(m)の3乗 ×10で算出される値

- ・心理治療や家族面接他の対応件数が大幅に増加。
- ・約3割がやせすぎ又は太りすぎに該当。



視点:十分な体制となっているか

#### ○職員数<七沢学園(児童・成人合計)>

	H28	R5	増減
職員総数	59人	69人	+10人
指導員	54人	66人	+12人
看護職員	2人	0人	-2人
その他	3人	3人	0人
入所者定員	60人	60人	0人
定員1人当たり職員数	0.98人	1.15人	+0.17人

<sup>・</sup>職員総数、定員1人当たり職員数ともに増加。

# 3 分析

#### 【視点】利用者動向の変化に対応できているか。

- ⇒ 県内の知的障害者数が増加する中、入所率や短期入所者数等が減少しており、
  - ニーズに応じきれていないのではないか。

#### 【視点】民間施設での対応が困難な障害児の受入先となっているか。

⇒ 障害の程度が軽度であっても、措置入所者や重複障害といった、**対応が難しい障害児などの** 

受入先としての役割を一定程度果たしているのではないか。

# 3 分析

#### 【視点】効果的な支援を提供しているか

⇒ 家庭復帰率が減少しているが、平均在所期間が長期化し、また、心理治療や家族面接 件数が増加していることから、家庭復帰が困難な事例が増えているのではないか。

利用者の健康管理には改善の余地があるのではないか。

精神科医の介入も必要ではないか

#### 【視点】十分な体制となっているか。

⇒ 職員数が増加する中、入所率や、短期入所件数等が減少しているのは、求められる支援の 内容が変化し、現体制での対応に困難が生じているのではないか。

# 4 まとめ

#### 【課題】

- 〇 県立障害児施設として、どのような<mark>利用者</mark>を対象とし、どのようなサービスを 提供していくべきか。
- 〇 利用者ニーズに合った、利用者目線のサービスを提供していくには、どのような 体制が必要か
- O 今後の利用者動向やサービス提供に見合った施設の<mark>規模</mark>はどのくらいが適当か。
- 〇 人材確保をどのようにしていくか。

# (3) 七沢学園(成人)

## ① 検討の視点

- **利用者動向の変化**に対応できているか。
- 民間施設での対応が困難な障害者の受入先となっているか。
- **効果的な支援**を提供しているか。
- 一十分な体制となっているか。



視点:利用者動向の変化に対応できているか

視点:民間施設での対応が困難な障害者の受入先となっているか

○ 知能指数別入所割合<七沢学園(成人)>

項目	Н8	R5	増減
軽度	53%	19%	-34pt
中度	30%	22%	-8pt
重度	17%	59%	+42pt

〇 年代別入所割合〈七沢学園(成人)〉

項目	F	18	R5		増減		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
10代	37人	42%	11人	41%	-26人	-1pt	
20代	46人	52%	1人	3%	-45人	-49pt	
30代	3人	4%	4人	15%	+1人	+11pt	
40代	2人	2%	6人	22%	+4人	+20pt	
50代以上	0人	0%	5人	19%	+5人	+19pt	

知的障害者数<県内>

項目	н17	R4	増減
軽度	5,619人	19,873 人	+14,254人
中度	7,732人	14,039 人	+6,307人
重度	13,735人	21,798 人	+8,063人
合計	27,086 人	55,710 人	+28,624人

〇 平均在所期間 < 七沢学園(成人)>

H28	R5	増減
6.0年	10.4年	+4.4年

- ・ 県内の軽度知的障害者数が大幅に増加している中、七沢学園(成人)は重度の入所者が大幅に増加。
- 入所者が高齢化し、在所期間も大幅に増加。

Kanagawa Prefectural Government



視点:利用者動向の変化に対応できているか。

〇 平均入所率 < 七沢学園(成人)>

H28	R5	増減	
98.5%	81.5%	-17.0pt	

- ・ 平均入所率は減少しており、R5事業計画の数値目標(93.1%)を下回っている。
- 〇 地域福祉支援事業延べ人数 <七沢学園(児童・成人合計)> (再掲)

		H28	R5	増減
総数		3,216人	1,392人	-1,824人
	電話・来園による相談支援	1,754人	288人	-1,466人
	一時保護	105人	359人	+254人
	家族1日利用	0人	40人	+40人
	知的障害者通所機関等巡回指導	298人	223人	-75人
	通所事業	1,059人	482人	-577人

○ 短期入所延べ人数<七沢学園(成人)>

H28	R5	増減
935人	355人	-580人

- 地域福祉支援事業は減少。
- 短期入所は大幅に減少しており、 指定管理目標値(1,380人)を大きく 下回っている。



#### 視点:効果的な支援を提供しているか。

#### 〇 日中活動支援延べ人数 < 七沢学園(成人)>

項目		H28	R5	増減
<b>⊬</b> 注入譯	延べ人数	4,681人	4,594人	-87人
生活介護	一日平均	19.3人	18.9人	-0.4人
<b>化江</b> 訓结	延べ人数	3,897人	2,460人	-1,437人
生活訓練	一日平均	16.0人	10.1人	-5.9人

- ・ 生活介護及び生活訓練の延べ人数が共に減少。
- 〇 家庭復帰率 <七沢学園(成人)> ※退所先がグループホームの方も含む

	H2	28	R	5	増	減
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
家族同居	1人	8.3%	0人	0%	-1人	-8.3pt
単身生活	0人	0%	0人	0%	0人	0.0pt
グループホーム	5人	41.7%	3人	100%	-2人	+58.3pt
施設	6人	50.0%	0人	0%	-6人	-50.0pt
医療機関	0人	0%	0人	0%	0人	0.0pt
<sup>(</sup> 計	12人		3人		-9人	

H28	R5	増減	
50.0%	100.0%	+50.0%	

・退所者数が減少。



視点:効果的な支援を提供しているか。

〇 栄養状態(R6:アルブミン(※)値) <七沢学園(成人)>

項目	基準以上	低栄養疑い	低栄養状態
人数	18人	7人	2人
割合	67%	26%	7%

・ 約3割の入所者が低栄養疑い又は低栄養状態に該当。

※アルブミン:血液中に含まれるたんぱく質の一種で、 たんぱく質の栄養状態を評価する指標。



視点:十分な体制となっているか

〇 職員数 < 七沢学園(児童・成人合計) > (再掲)

	H28	R5	増減
職員総数	59人	69人	+10人
指導員	54人	66人	+12人
看護職員	2人	0人	-2人
その他	3人	3人	0人
入所者定員	60人	60人	0人
定員1人当たり職員数	0.98人	1.15人	+0.17人

・ 職員総数、定員1人当たり職員数ともに増加。

# ③ 分析

【視点】利用者動向の変化に対応できているか。

⇒ 県内の知的障害者数が増加する中、入所率や短期入所者数等が減少しており、ニーズに応じ きれていないのではないか。

【視点】民間施設での対応が困難な障害者の受入先となっているか。

⇒ 重度や高齢といった**対応が難しい障害者の受入先**としての役割を一定程度果たしているのではないか。

## 3 分析

#### 【視点】効果的な支援を提供しているか。

⇒ 平均在所期間が長期化しており、退所者数が減少していることから、医療的ケアや健康管理 など、利用者の地域移行に向けた支援に改善の余地があるのではないか。

#### 【視点】十分な体制となっているか。

⇒ 職員数が増加する中、入所率や、短期入所件数等が減少しているのは、求められる支援の 内容が変化し、現体制での対応に困難が生じているのではないか。

### 4 まとめ

### 【課題】

- 〇 県立の障害者施設として、どのような利用者を対象とし、どのようなサービスを 提供していくべきか。
- 〇 利用者二一ズに合った、利用者目線のサービスを提供していくには、どのような 規模でどのように運営していくのがよいか。
- O 人材確保をどのようにしていくか。

# (4) 七沢療育園

### ① 検討の視点

- **利用者動向の変化**に対応できているか。
- **民間施設での対応が困難な方**の受入先となっているか。
- 重症心身障害者に対する**効果的な支援**を提供しているか。
- 一十分な体制となっているか。



### 現状

視点:利用者動向の変化に対応できているか

視点:民間施設での対応が困難な方の受入先となっているか。

〇 平均入所率 <七沢療育園>

H28	R5	増減
93.0%	93.2%	+0.2pt

重症心身障害児者数 < 県内>

H17	R4	増減
2,070人	3,671人	+1,601人

- ・県内の重症心身障害児者数が増加する中、七沢療育園の入所率は9割以上を維持しているが、 R5事業計画の数値目標(97.0%)を下回っている。
- つ 年齢構成 <七沢療育園>

<i>ት</i> ታ	H8		R	5	増減	
年齢	人数	割合	人数	割合	人数	割合
10代	2人	5.3%	0人	0.0%	-2人	−5.3pt
20代	3人	7.9%	4人	11.8%	+1人	-3.9pt
30代	15人	39.5%	7人	20.6%	-8人	-18.9pt
40代	14人	36.8%	7人	20.6%	-7人	-16.2pt
50歳以上	4人	10.5%	16人	47.0%	+12人	+36.6pt
計	38人	100.0%	34人	100.0%	-4人	

〇 平均在所期間 <七沢療育園>

H28	R5	増減
20.8年	20.8年	0年

平均在所期間は横ばいだが 長期にわたっている。

・ 入所者は高齢化している。

Kanagawa Prefectural Government



視点:利用者動向の変化に対応できているか。

〇 地域福祉支援事業延べ人数 < 七沢療育園 >

		H28	R5	増減
総数		39人	20人	-19人
	訪問指導	33人	6人	-27人
	一時保護	0人	14人	+14人
	重心親子教室	6人	0人	-6人

○ 短期入所延べ人数<七沢療育園>

H28	R5	増減
877人	1,244人	+367人

- ・ 短期入所延べ人数は大幅に増加しており、 指定管理目標値(700人)を大きく上回って いる。
- 地域福祉支援事業は減少。



#### 視点:重症心身障害者に対する効果的な支援を提供しているか

O リハビリテーション支援の状況 <七沢療育園>

	H29	R5	増減		H29	R5	増減		H29	R5	増減
PT	63件	572件	+509件	ОТ	14件	106件	+92件	ST	24件	23件	-1件
	H29	R5	増減		H29	R5	増減				
心理	11件	104件	+93件	義肢装具	26件	42件	+16件				

- 病院スタッフによるリハビリテーション支援の件数は概ね増加している。
- 〇 栄養状態(R5:アルブミン値) <七沢療育園>

	基準値以上	低栄養疑い	低栄養状態
人数	2人	10人	22人
割合	6%	29%	65%

入所者の栄養状態は大半が低水準。



視点:十分な体制となっているか。

### ○職員数<七沢療育園>

	H28	R5	増減
職員総数	48人	44人	-4人
医師	1人	1人	0人
看護職員	22人	21人	-1人
指導員	22人	22人	0人
その他	3人	0人	-3人
入所者定員	40人	40人	0人
定員1人当たり職員数	1.2人	1.1人	-0.1人

・職員数並びに定員1人当たりの職員数は減少。

## 3 分析

#### 【視点】利用者動向の変化に対応できているか

⇒ 高い入所率を維持しているが、**短期入所のニーズ**が高まっているのではないか。

#### 【視点】民間施設での対応が困難な方の受入先となっているか。

⇒ 県内の重症心身障害者数が増加する中、**重症心身障害者の受入先**としての役割を一定程度 果たしているのではないか。

# ③ 分析

#### 【視点】重症心身障害者に対する効果的な支援を提供しているか。

⇒ 在所期間が長期化しており、**地域移行や栄養管理に改善の余地**があるのではないか。

#### 【視点】十分な体制となっているか。

⇒ 職員数は微減の一方、高い入所率を維持し、短期入所人数も増加していることから、 **職員の負担が大きくなっている**のではないか。

### 4 まとめ

### 【課題】

- O 入所者の地域移行を進めるためにはどのようなサービスを提供していくべきか。
- 〇 利用者ニーズに合った、利用者目線のサービスを提供していくには、どのような 体制が必要か。
- 〇 今後の利用者動向やサービス提供に見合った施設の<mark>規模</mark>はどのくらいが適当か。
- O 人材確保をどのようにしていくか。

# (5) 七沢自立支援ホーム

### ① 検討の視点

- **利用者動向の変化**に対応できているか。
- **民間施設での対応が困難な障害者**の受入先となっているか。
- 利用者の機能向上のための効果的な支援を提供しているか。
- 一十分な体制となっているか。



### 現状

#### 視点:民間施設での対応が困難な障害者の受入先となっているか。

○ 肢体不自由部門入所数 < 七沢自立支援ホーム>

項目	R5
総数	29人
1級	14人(48%)
2級	10人(35%)
3級	2人(7%)
4級	1人(4%)
5級	0人(0%)
6級	1人(3%)
その他	1人(3%)

の 視覚不自由部門入所者数<七沢自立支援ホーム>

項目	R5
総数	8人
1級	5人(62%)
2級	3人(38%)
3級	0人(0%)

Kanagawa Prefectural Government

つ 身体障害者数 < 県内>

日奴~示パ
R4
26.6万人
9.6万人
4.1万人
3.8万人
6.3万人
1.3万人
1.6万人

・七沢自立支援ホームの入所者は重い障害等級の方が 大部分を占めている。



#### 視点:利用者動向の変化に対応できているか。

〇 平均入所率 < 七沢自立支援ホーム>

項目	H28	R5	増減
肢体	91.2%	60.3%	-30.9pt
視覚	82.5%	82.1%	-0.4pt
合計	89.5%	64.7%	-24.8pt

- ・肢体不自由部門の平均入所率が大きく減少。
- ・全体の平均入所率もR5事業計画の数値目標(94.1%)を大きく下回っている。
- 〇 短期入所延べ人数
- H28R5増減521人142人-379人

〇 地域福祉支援事業延べ人数(通所事業)

H28	R5	増減
885人	562人	-323人

・短期入所や通所事業は大きく減少しており、短期入所の指定管理目標値(1,297人)を大きく下回っている。



#### 視点:利用者の機能向上のための効果的な支援を提供しているか。

#### 〇 訓練件数 <七沢自立支援ホーム>

項目		H29	R5	増減
PT	訓練件数	3,794件	2,772件	-1,022件
PI	一人当たり件数	87.2件	81.5件	+5.7件
ОТ	訓練件数	12,092件	3,252件	-8,840件
ОТ	一人当たり件数	278.0件	95.6件	-182.4件
СТ	訓練件数	822件	518件	-304件
ST	一人当たり件数	18.9件	15.2件	-3.7件
心理	訓練件数	262件	294件	+32件
心理	一人当たり件数	6.0件	8.6件	+2.6件
<b>从</b>	訓練件数	5,832件	3,775件	-2,057件
体育	一人当たり件数	134.1件	111.0件	-23.1件

・訓練件数は減少。

#### ○ FIM値(R5) <七沢自立支援ホーム>

入所時平均	退所時平均	増減
91.5	96.9	+5.4
増加	減少	横ばい
12人	4人	3人

※FIM: 運動と認知の2項目で日常生活動作を評価する指標(18~126点)

・退所時にFIM値が増加する利用者が多い。

〇栄養状態(R6:アルブミン値) <七沢自立支援ホーム>

項目	基準以上	低栄養 疑い	低栄養 状態
人数	22人	3人	1人
割合	85%	11%	4%

・栄養状態は基準値以上の利用者が85%以上。



### 現状

視点:利用者の機能向上のための効果的な支援を提供しているか。

#### ○家庭復帰率

H28	R5	増減
84.1%	90.0%	+5.9%

・R5事業計画の数値目標(91.0%)を概ね 満たしている。



視点:十分な体制となっているか。

〇 職員数(令和5年度:定員48人) <七沢自立支援ホーム>

項目	H28	R5	増減
医師	0人	1人	+1人
看護職員	7人	8人	+1人
理学療法士	2人	0人	-2人
作業療法士	2人	0人	-2人
その他医療職員	1人	1人	0人
指導員	39人	28人	-11人
その他職員	1人	0人	-1人
合計	52人	38人	-14人

・指導員の人数が減少

# 3 分析

#### 【視点】利用者動向の変化に対応できているか。

- ⇒ 肢体不自由者部門の入所者が減少し、また、短期入所等の人数も減少していることから、
  - ニーズに応じきれていないのではないか。

#### 【視点】民間施設での対応が困難な障害者の受入先となっているか。

⇒ 重い障害等級の方を中心に受け入れており、民間施設での対応が難しい障害者の受入先 としての役割を一定程度果たしているのではないか。

## 3 分析

### 【視点】利用者の機能向上のための効果的な支援を提供しているか。

⇒ **退所時のFIM値が向上**している利用者が多く、また、家庭復帰率も高いことから、 支援の内容は適切といえるのではないか。

#### 【視点】十分な体制となっているか。

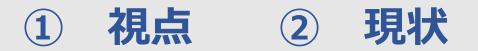
⇒ 肢体不自由部門の入所率の減少や短期入所者数等の減少は、**職員数の不足**が影響しているのではないか。

### 4 まとめ

### 【課題】

- 〇 利用者が非常に少ない状況もあることから、県立施設としての<mark>役割</mark>(サービス 内容等)の整理が必要ではないか。
- 〇 利用者二一ズに合った、利用者目線のサービスを提供していくには、どのような 体制が必要か。
- O 今後の利用者動向やサービスに見合った施設の規模はどのくらいが適切か。
- 〇 人材確保はどのようにしていけばよいか。

# (6) 医療と福祉の連携



### ①【視点】

○ 医療と福祉の連携が行われているか。

### ②【現状】

○ 病院の専門スタッフによる福祉施設入所者へのリハビリテーションの状況(R5年度)

	七沢学園 (児童)	七沢学園 (成人)	七沢療育園	七沢自立 支援ホーム	合計
理学療法	0件	0件	572件	2,772件	3,344件
作業療法	0件	0件	106件	3,252件	3,358件
言語訓練	0件	0件	23件	518件	541件
職能訓練	0件	0件	0件	571件	571件
心理検査等	1,641件	65件	104件	294件	2,104件

### 3 分析 4 課題

### ③【分析】

- 入所者の特性に応じて、病院の専門スタッフによるリハビリテーション医療を提供している。
  - ⇒ 病院側から福祉側に対するリハビリテーション医療の提供は一定程度されている。 一方、福祉側が求める医療的ケアには十分対応していない。
- 入院患者の地域移行に対する福祉施設側からのサポート体制はない。
  - ⇒ 福祉施設側からのサポート体制があれば、円滑に地域移行が進むのではないか。
- 〇 地域の障害者施設や障害者に対してリハビリテーション医療を提供している。
  - ⇒ 地域の障害者施設や障害者が求める医療的ケアには十分対応していない。

#### 4 【課題】

〇 医療と福祉のそれぞれの役割の整理と必要な支援の仕組みの再構築が必要ではないか。

# 議題

「今後の検討会における論点について」

### 今後の検討の論点(案)

- ① 県立施設として目指すべき姿
  - (民間施設との役割分担、医療や福祉のニーズへの対応等)
- ② 当事者目線のサービス・提供体制の充実強化(地域生活への移行支援等)
- ③ 医療と福祉の連携強化(施設内、地域との連携)
- 4 人材の確保・定着・育成
- ⑤ 運営に好循環をもたらす収支構造

# 課題・論点まとめ(案)

開催		施設	課題
第3回	病院 あり方検討①	病院	○ 引き続き、拠点としての役割を担うには、どのような機能を有し、どのような患者・疾患を対象にしていくべきか。 ○ 高度専門的なリハビリテーションを十分に提供していくにはどのような体制が必要か。 ○ 地域連携をより一層進めていくにはどのようにしたらよいか。
第4回	病院 あり方検討②		○ 今後の患者動向や機能に見合った病院の規模はどのくらいが適当か。 ○ 人材確保をどのようにしていくか。
第5回	七沢学園(児童)		<ul><li>○ 県立障害児施設として、どのような利用者を対象とし、どのようなサービスを提供していくべきか。</li><li>○ 利用者ニーズに合った、利用者目線のサービスを提供していくには、どのような体制が必要か</li><li>○ 今後の利用者動向やサービス提供に見合った施設の規模はどのくらいが適当か。</li><li>○ 人材確保をどのようにしていくか。</li></ul>
<b>かり</b> 回	第5回 あり方検討① 七沢学園 (成人)	○ 県立の障害者施設として、どのような利用者を対象とし、どのようなサービスを提供していくべきか。 ○ 利用者ニーズに合った、利用者目線のサービスを提供していくには、どのような規模でどのように運営していくのがよいか。 ○ 人材確保をどのようにしていくか。	
第6回	七沢療育園		<ul><li>○ 入所者の地域移行を進めるためにはどのようなサービスを提供していくべきか。</li><li>○ 利用者ニーズに合った、利用者目線のサービスを提供していくには、どのような体制が必要か。</li><li>○ 今後の利用者動向やサービス提供に見合った施設の規模はどのくらいが適当か。</li><li>○ 人材確保をどのようにしていくか。</li></ul>
<b>为</b> 0回	あり方検討②	七沢自立支援 ホーム	<ul><li>○ 利用者が非常に少ない状況もあることから、県立施設としての役割(サービス内容等)の整理が必要ではないか。</li><li>○ 利用者ニーズに合った、利用者目線のサービスを提供していくには、どのような体制が必要か。</li><li>○ 今後の利用者動向やサービスに見合った施設の規模はどのくらいが適切か。</li><li>○ 人材確保はどのようにしていけばよいか。</li></ul>
	施設全体		○ 医療と福祉のそれぞれの役割の整理と必要な支援の仕組みの再構築が必要ではないか。

Kanagawa Prefectural Government

# 今後の検討スケジュール(案)

開催回数	開催予定時期	検討内容
第1回	令和6年10月	現状と課題の抽出、調査内容、分析項目
第2回	令和7年1月	県内ニーズの把握、他施設との比較・分析、論点整理
第3回	3月	病院のあり方について
第4回	5月	11
第5回	7月	福祉施設のあり方について
第6回	8月	11
第7回	10月	医療と福祉の連携について
第8回	12月	11
第9回	令和8年2月	センターのあり方について (組織体制、経営構造)
第10回	3月	検討会報告書とりまとめ

Kanagawa Prefectural Government

# 説明は以上です。